

118C60

本問は、118C60～62 の連問の一部です。

78 歳の男性。嘔声を主訴に来院した。

現病歴：1 か月前に嘔声が出現した。2 週間前から飲水時に咳嗽が出現するようになり自宅近くの診療所で鎮咳薬を処方された。咳嗽は改善せず、3 日前から喀痰に血液が混じるようになった。

既往歴：3 年前に原発性肺癌のために右肺下葉切除術が施行され経過観察となっていた。1 年前から自己判断で定期的な受診を中断していた。

生活歴：65 歳までは会社員。妻と 2 人暮らし。喫煙は 70 歳まで 20 本/日を 50 年間。飲酒はビール 350 mL/日。

家族歴：弟が 70 歳台で胃癌。

現 症：意識は清明。身長 162 cm, 体重 54 kg。体温 36.2℃。脈拍 72/分, 整。血圧 124/72 mmHg。呼吸数 16/分。SpO₂98% (room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。頸静脈の怒張は認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦, 軟で, 肝・脾を触知しない。

検査所見：尿所見: 蛋白(－), 糖(－), 潜血(－)。血液所見: 赤血球 380 万, Hb 13.8 g/dL, Ht 35%, 白血球 7,600, 血小板 24 万。血液生化学所見: 総蛋白 6.0 g/dL, アルブミン 3.0 g/dL, 総ビリルビン 0.7 mg/dL, AST 25 U/L, ALT 19 U/L, LD 343 U/L (基準 124～222), 尿素窒素 24 mg/dL, クレアチニン 0.8 mg/dL。胸部エックス線写真で右第 1 弓の突出を認める。胸部造影 CT で縦隔リンパ節腫大を認めた。腹部造影 CT と骨シンチグラフィで異常を認めなかった。腫大した縦隔リンパ節に対して超音波内視鏡下に穿刺生検を施行し, 肺腺癌術後のリンパ節再発と診断された。

次に行うべき検査はどれか。

- a 頭部造影 MRI
- b 腹部造影 MRI
- c 頸部超音波検査
- d 肺動脈造影検査
- e 肺血流シンチグラフィ